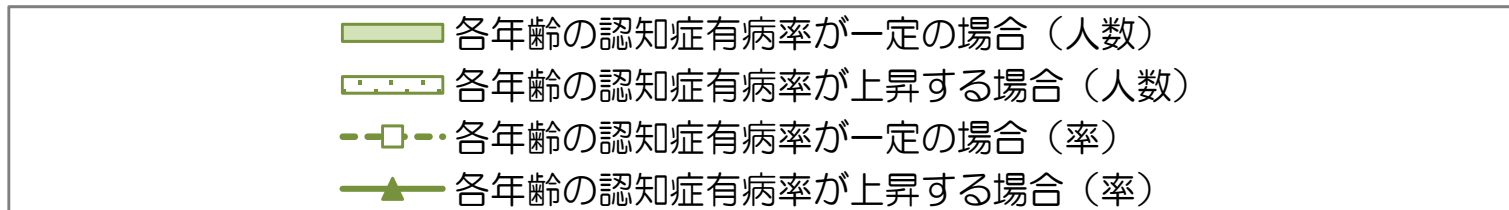
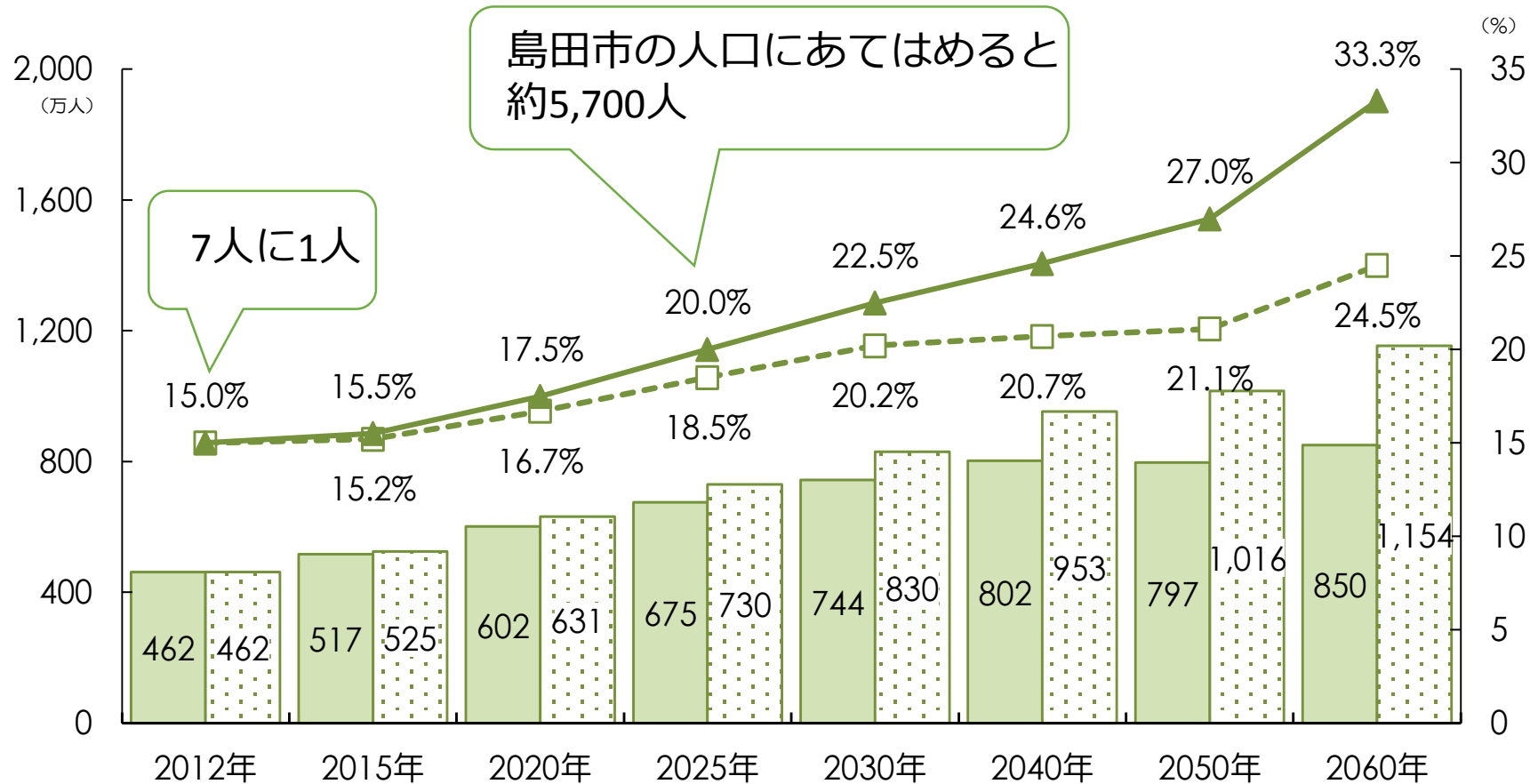


島田市の認知症施策について

認知症高齢者の推計

* 出典：平成29年度版高齢者社会白書（内閣府）



認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン） ～認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて～

【基本的考え方】

認知症の人の意志が尊重され、
出来る限り住み慣れた地域のよい環境で、
自分らしく暮らし続けることができる
社会の実現を目指します。

新オレンジプランの7つの柱

- 1 認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進
- 2 認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供
- 3 若年性認知症施策の強化
- 4 認知症の人の介護者への支援
- 5 認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進
- 6 認知症の予防法、診断法、治療法、リハビリテーションモデル、介護モデル等の研究開発及びその成果の普及の推進
- 7 認知症の人やその家族の視点の重視

1 認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進



◆認知症への社会の理解を深めるキャンペーン（H30）

◇高齢者お探し模擬訓練「ロバ隊長を探せ」 62名参加

◇認知症早期発見の簡易検査・相談（認知症疾患センター協力）

簡易検査（15人）、相談（5人） R1.9.21（土）に開催予定

◆認知症サポーターの養成（学校における教育）

認知症サポーター養成講座受講者数（人） * 累計

※認知症キャラバン・メイト養成講座を市で開催予定 R1.8.10（土）

年度	2015	2016	2017	2018	2019	2020
実績	7,668	9,322	10,448	12,170	—	—
計画	7,000	8,000	9,000	12,000	13,000	14,000

2 認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供

◆発症予防の推進

◇通いの場の推進

	しまトレ	居場所	地域ふれあい
箇所数（R1.6末）	72	59	46

◇脳健康度テスト 定期開催6回/年 他3回 計112名実施

◇認知症予防講演会 R1年度「VR認知症体験会」R1.7.6 89名参加

H30年度①「脳卒中の視点から認知症予防を学ぶ」45名参加

②「運動と認知症予防（スクエア・ステップ）」55名参加

⇒ 今年度は実技編を開催！ R1.8.24（土）

◆早期診断・早期対応のための体制整備

◇認知症初期集中支援チームの設置

H29年度 3件（H28年度からの継続ケースを対応）

H30年度 9件

◆人生の最終段階を支える医療・介護等の提供

◇在宅医療・介護連携相談窓口 相談件数111件（H30年度）

◇多職種合同研修会の開催 2回/年

◇もしものあんしんノート

◇リビングウィル

リビングウィルの配布数

年度	2015	2016	2017	2018	2019	2020
実績	2,870	492	766	346	—	—
計画				500	500	500

◆医療・介護等の有機的な連携の推進

◇認知症ケアガイド（認知症ケアパス）の活用 3,000部作成（H28年度）

3 若年性認知症施策の強化

◆若年性認知症支援ハンドブックの配布

◆相談窓口の設置

4 認知症の人の介護者への支援

◆認知症家族の集い 毎月1回実施

H30年度 実19名 延べ114名 参加

◇ユマニチュードDVD学習会 年3回開催

第1回を5月に開催 ⇒ 一般参加者6名

◆認知症カフェ

◇定期開催8箇所（R1.5現在）

認知症カフェマップの作成

◆認知症初期集中支援チームでの支援

5 認知症の人を含む高齢者に やさしい地域づくりの推進

◆生活支援サービス

◇応援隊 3箇所

◇配食サービス 等

◇免許返納に関する勉強会（未定）

◆社会参加の促進

◇居場所、地域ふれあい、しまトレなどの通いの場

◆見守り体制の整備

◇みまもりあいプロジェクト

◇高齢者見守りネットワーク

6 認知症の予防法、診断法、治療法、リハビリテーションモデル、介護モデル等の研究開発及びその成果の普及の推進

- ◆ 認知症の病態の解明

- ◆ 有効な治療法の開発

7 認知症の人やその家族の視点の重視

- ◆ ころの声アンケートを実施 (H26年度)
- ◆ 本人ミーティングの開催 (県で昨年に引き続き開催予定)
 - ◇ 県でモデル事業実施 ⇒ R2年度には全市町で実施を目標
- ◆ 認知症対策検討委員会の委員として家族が出席

まとめ

新オレンジプランは、単独で進めていく施策ではなく、地域包括ケアシステムの実現を目指す中で、認知症について社会を挙げた取組のモデルを示していくものです。

認知症高齢者等にやさしい地域の実現には、行政、民間、地域住民など様々な主体がそれぞれの役割を果たしていくことが重要である。

困っている人がいればその人の手助けをするコミュニティのつながりが基盤であり、認知症の人にやさしい地域づくりを通じて地域を再生していくという視点も重要です。